

# 2024年3月期第2四半期決算説明

---

2023年11月8日

 日本カーバイド工業株式会社



# 2024年3月期第2四半期決算の概要

---



# サマリー【連結損益計算書】

- 電子・機能製品事業は、昨年度後半からのエレクトロニクス市況低迷により、半導体及び電子部品向け製品の出荷が減少
- フィルム・シート製品事業は、米国でのグラフィック向け製品の流通在庫消化が遅れ出荷が減少も、欧米や中国での自動車販売台数の回復により、ナンバープレート向け製品の出荷が増加
- 建材関連事業は、原材料価格の変動に応じた価格改定と固定費抑制により、収支が改善
- エンジニアリング事業は、グループ会社を含めた工事案件の受注が減少
- 以上の結果、全体として原燃料価格の高止まりの影響もあり、前年同期比**減収減益**

単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	
	第2四半期	第2四半期	増減額	増減率
	実績	実績		
売上高	23,313	<b>21,333</b>	▲ 1,979	▲8.5%
営業利益	1,069	<b>480</b>	▲ 588	▲55.0%
営業利益率	4.6%	<b>2.3%</b>	—	▲2.3ポイント
経常利益	1,740	<b>1,027</b>	▲ 712	▲41.0%
四半期純利益	1,367	<b>787</b>	▲ 580	▲42.4%

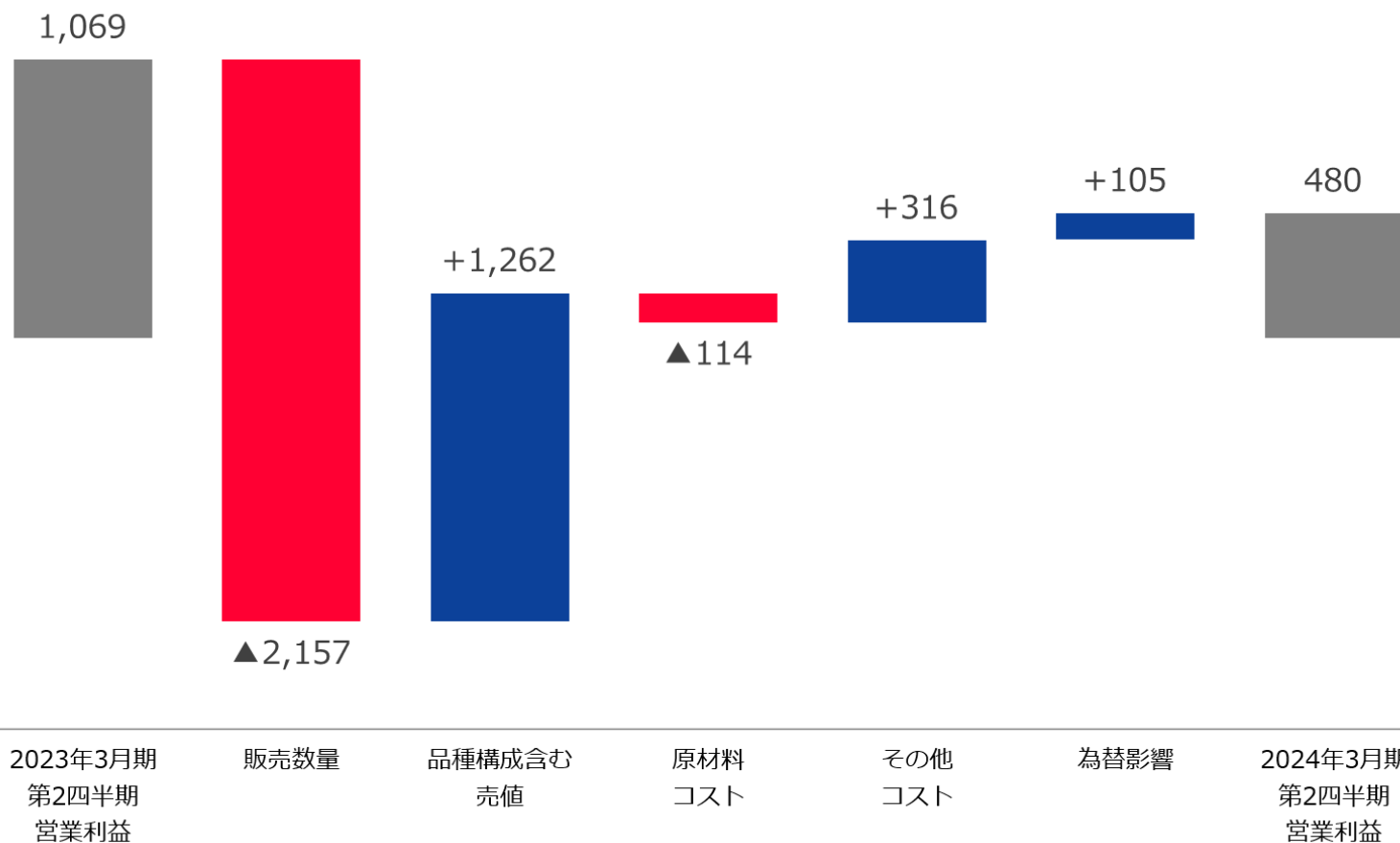
# 営業利益増減要因分析

2023年3月期第2四半期v.s.2024年3月期第2四半期



前年同期比 588百万円減益

単位：百万円



# セグメント別業績



単位：百万円

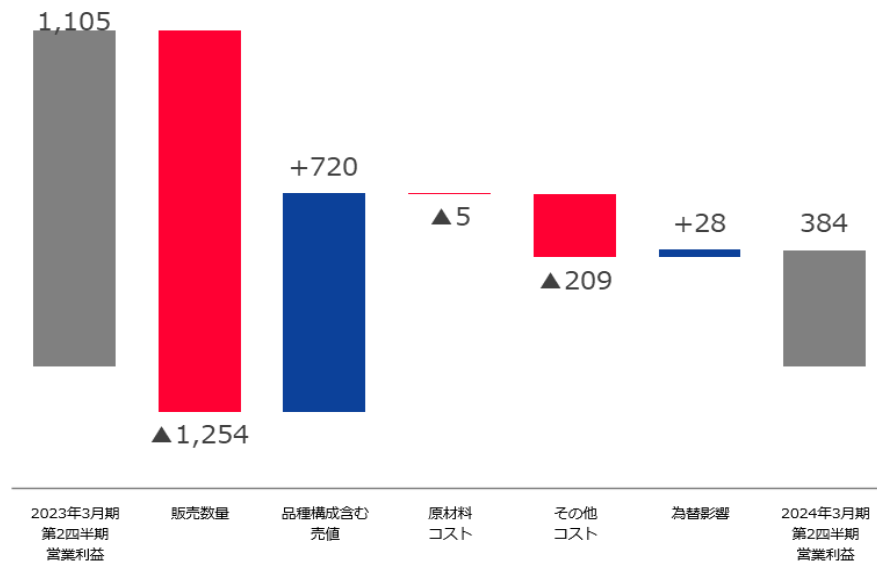
		2023年3月期第2四半期	2024年3月期第2四半期	前年同期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	9,849	<b>8,323</b>	▲ 1,526	▲15.5%
	営業利益	1,105	<b>384</b>	▲ 720	▲65.2%
フィルム・シート製品	売上高	8,852	<b>8,601</b>	▲ 251	▲2.8%
	営業利益	292	<b>341</b>	48	+16.8%
建材関連	売上高	3,884	<b>3,499</b>	▲ 384	▲9.9%
	営業利益	41	<b>147</b>	106	+260.3%
エンジニアリング	売上高	1,646	<b>1,075</b>	▲ 571	▲34.7%
	営業利益	▲ 104	<b>▲ 127</b>	▲ 23	-
連結調整	売上高	▲ 920	<b>▲ 166</b>	755	-
	営業利益	▲ 263	<b>▲ 265</b>	▲ 2	-
連結合計	売上高	23,313	<b>21,333</b>	▲ 1,979	▲8.5%
	営業利益	1,069	<b>480</b>	▲ 588	▲55.0%



# セグメント別状況 電子・機能製品事業

単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	9,849	<b>8,323</b>	▲ 1,526	▲15.5%
機能化学品	1,858	<b>1,522</b>	▲ 336	▲18.0%
機能樹脂	4,214	<b>4,345</b>	131	+3.1%
電子素材	3,777	<b>2,455</b>	▲ 1,322	▲35.0%
調整	0	▲ 1	-	-
営業利益	1,105	<b>384</b>	▲ 720	▲65.2%



## 機能化学品 減収減益

- + 異常気象がもたらす多雨の影響により発生する病害から、農作物を守る農薬向け原料の出荷が増加
- 昨年度後半からのエレクトロニクス市況低迷により、半導体及び電子部品向け製品の出荷が減少

## 機能樹脂 増収増益

- + 液晶パネル関連市況の回復力は弱いものの流通在庫の消化が進み、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が増加
- + 高付加価値品の出荷比率拡大による損益へのプラス影響

## 電子素材 減収減益

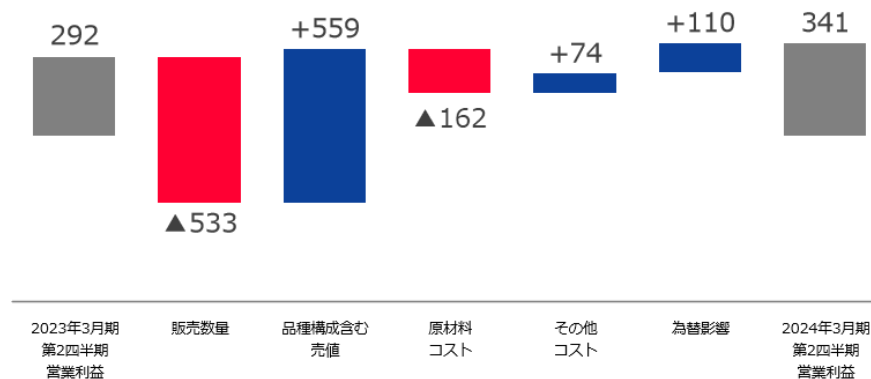
- パソコンやサーバー、通信機器などの電子部品向け高付加価値品の出荷が減少
- 昨年度後半からの半導体市況低迷により、半導体用金型クリーニング材の出荷が減少

# セグメント別状況 フィルム・シート製品事業



単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	8,852	<b>8,601</b>	▲ 251	▲ 2.8%
フィルム	776	<b>620</b>	▲ 156	▲ 20.1%
ステッカー	3,229	<b>3,319</b>	90	+2.8%
再帰反射シート	4,846	<b>4,662</b>	▲ 184	▲ 3.8%
調整	0	▲ 1	-	-
営業利益	292	<b>341</b>	48	+16.8%



## フィルム 減収減益

- 世界的な自動車生産台数は回復も流通在庫の消化が遅れており、自動車向け製品の出荷が減少

## ステッカー 増収減益

- + ブラジルとインドネシアでの二輪車生産台数の増加により、二輪車向け製品の出荷が増加
- ベトナムでの二輪車生産台数の減少により、二輪車向け3Dエンブレムの出荷が減少

## 再帰反射シート 減収増益

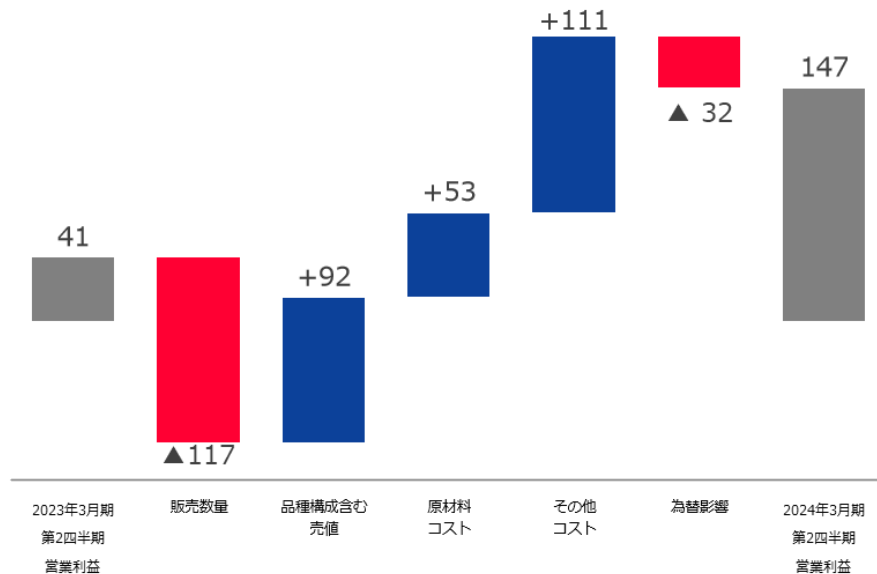
- 米国でのグラフィック向け製品の流通在庫消化が遅れ、出荷が減少
- + 欧米や中国での自動車販売台数の回復により、ナンバープレート向け製品の出荷が増加

# セグメント別状況 建材関連事業



単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	3,884	<b>3,499</b>	▲ 384	▲9.9%
営業利益	41	<b>147</b>	106	+260.3%



## 減収増益

- 住宅着工戸数の減少により、アルミ建材の売上が減少
- + 原材料価格の変動に応じた価格改定と、固定費の抑制





単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	1,646	<b>1,075</b>	▲ 571	▲34.7%
営業利益	▲ 104	<b>▲ 127</b>	▲ 23	-

## 減収減益

- グループ会社向け工事案件の減少により、売上が減少
- 製鉄分野向け工事案件は増加も、コスト増による損益へのマイナス影響

# 【サマリー】 連結貸借対照表



自己資本比率は前期末比1.6ポイント改善し、52.1%

単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期第2四半期	前期末比
現金及び預金	10,906	11,611	706
売上債権	12,211	12,629	418
棚卸資産	9,955	10,219	264
有形固定資産・無形固定資産	26,293	26,832	539
その他	2,473	1,914	▲ 559
資産合計	61,838	63,205	1,367
有利子負債	11,861	12,652	791
仕入債務	5,912	5,909	▲ 3
その他	10,978	9,733	▲ 1,245
負債の部	28,751	28,294	▲ 457
株主資本	23,789	24,266	476
その他の包括利益累計額	7,441	8,660	1,218
非支配株主持分	1,854	1,984	130
純資産の部	33,086	34,910	1,824
負債及び資本合計	61,838	63,205	1,367
D/Eレシオ	0.38	0.38	0.00
自己資本	31,231	32,926	1,695
自己資本比率	50.5%	52.1%	1.6ポイント

# 連結キャッシュフロー計算書



フリーキャッシュフローは▲631百万円

単位：百万円

	2023年3月期第2四半期	2024年3月期第2四半期	前年同期比
税金等調整前当期純利益	1,659	<b>1,233</b>	▲ 426
減価償却費	1,013	<b>969</b>	▲ 44
運転収支	331	<b>▲ 101</b>	▲ 432
その他	▲ 551	<b>▲ 625</b>	▲ 74
営業活動によるキャッシュフロー	2,453	<b>1,476</b>	▲ 977
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 1,540	<b>▲ 2,108</b>	▲ 567
フリーキャッシュフロー	912	<b>▲ 631</b>	▲ 1,543
借入金を増減額	▲ 1,516	<b>825</b>	2,341
配当金の支払額	▲ 281	<b>▲ 328</b>	▲ 47
その他	▲ 89	<b>▲ 79</b>	10
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 1,887	<b>415</b>	2,302
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,122	<b>627</b>	▲ 495
現金及び現金同等物の増減額	147	<b>411</b>	264
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,986	<b>10,232</b>	▲ 754



エレクトロニクス戦略市場を中心とした事業環境の変化に合わせ、設備投資計画の見直しを実施し、前年同期比571百万円減少

単位：百万円

設備投資額	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比
設備投資額	1,621	<b>1,050</b>	▲ 571
電子・機能製品	534	<b>186</b>	▲ 348
フィルム・シート製品	1,006	<b>682</b>	▲ 324
建材関連	24	<b>13</b>	▲ 11
エンジニアリング	10	<b>22</b>	12
共通・調整	45	<b>133</b>	88
減価償却費	1,013	<b>969</b>	▲ 44
研究開発費	1,048	<b>1,086</b>	38

## 主な設備投資案件

- フィルム・シート製造設備の増強
- エンジニアリング事業向け分析装置の更新
- セラミック基板製造設備の更新

※設備投資額は、設備等が検収された時点  
を以て資産計上された金額。投資活動による  
キャッシュフローの有形固定資産の取得  
による支出は検収された設備等の資金が実  
際に支払われた時点での金額となり、差異  
が生じる



# 2024年3月期決算の通期業績予想

---

# 2024年3月期 連結業績予想



売上高は前期並みの440億円、  
営業利益は前期比▲36.6%の減益となる8億円を予想

単位：百万円

	2023年3月期		2024年3月期		前期比	
	実績	利益率	業績予想	利益率	増減額	増減率
売上高	44,008	-	<b>44,000</b>	—	▲ 8	▲0.0%
営業利益	1,261	2.9%	<b>800</b>	<b>1.8%</b>	▲ 461	▲36.6%
経常利益	1,902	4.3%	<b>1,300</b>	<b>3.0%</b>	▲ 602	▲31.7%
当期純利益	332	0.8%	<b>900</b>	<b>2.0%</b>	568	+170.7%
1株当たり配当	中間	30円	—	<b>30円</b>	0円	+0.0%
	期末	35円	—	<b>35円</b>		

2024年3月期は前期と同額の年間配当65円を予定

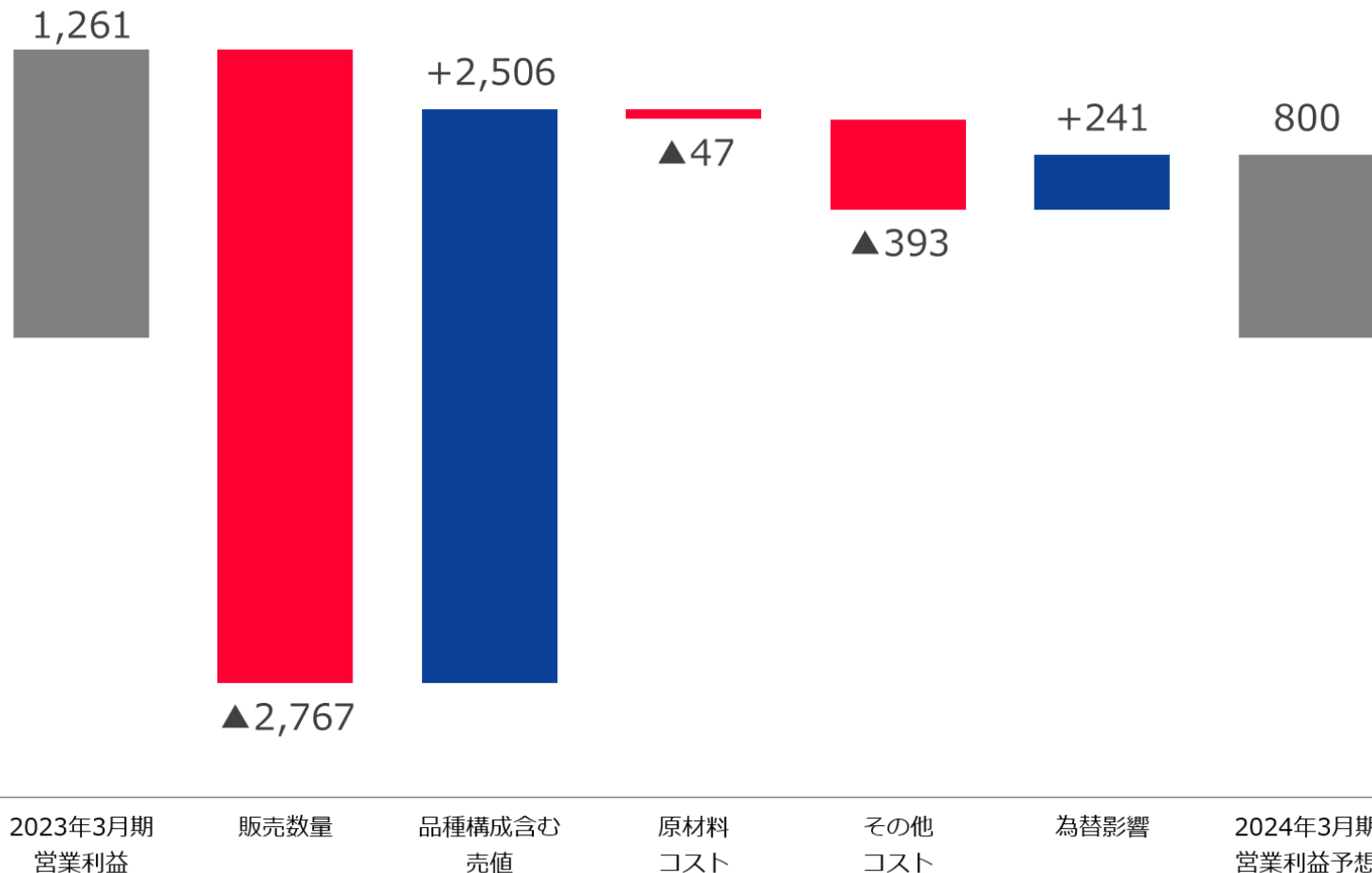
株主還元方針は、配当性向30%以上を目途に安定配当の継続を目指す

# 営業利益増減要因分析 2023年3月期v.s.2024年3月期



前期比 461百万円**減益**

単位：百万円



# セグメント別 業績予想



単位：百万円

		2023年3月期	2024年3月期	前期比	
		実績	業績予想	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	18,128	<b>17,000</b>	▲ 1,128	▲6.2%
	営業利益	1,458	<b>530</b>	▲ 928	▲63.6%
フィルム・シート製品	売上高	16,603	<b>17,400</b>	797	+4.8%
	営業利益	143	<b>620</b>	477	+333.6%
建材関連	売上高	7,589	<b>7,300</b>	▲ 289	▲3.8%
	営業利益	258	<b>270</b>	12	+4.7%
エンジニアリング	売上高	5,084	<b>2,700</b>	▲ 2,384	▲46.9%
	営業利益	52	<b>▲ 100</b>	▲ 152	-
連結調整	売上高	▲ 3,396	<b>▲ 400</b>	2,996	-
	営業利益	▲ 653	<b>▲ 520</b>	133	-
連結合計	売上高	44,008	<b>44,000</b>	▲ 8	▲0.0%
	営業利益	1,261	<b>800</b>	▲ 461	▲36.6%



# セグメント別 下期の事業見通し（上期比較）



電子・機能 製品	機能 化学品	- 需要期の終息により、農薬向け原料の出荷が減少
	機能樹脂	+ 液晶パネル関連の市況回復により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が増加 - 在庫削減による損益へのマイナス影響
	電子素材	+ エレクトロニクス市況の回復により、電子部品向け製品の出荷が増加 - 在庫削減による損益へのマイナス影響
フィルム・ シート製品	フィルム	- 減価償却費増による損益へのマイナス影響
	ステッカー	- ベトナムでの二輪車生産台数の回復遅れにより、二輪車向け製品の出荷が減少
	再帰反射 シート	+ 引き続き世界的な自動車販売台数回復により、ナンバープレート向け製品の出荷が増加
建材関連	+ マンション及び戸建て住宅竣工の増加により、売上が増加 - 在庫削減による損益へのマイナス影響	
エンジニア リング	+ 大型工事案件の完工により、売上が増加	



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

---

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



PBRの改善が重要な経営課題と認識、ROEとPERの両面より施策を推進

PBR

=

ROE

×

PER

指標	取組み内容
ROE	<ul style="list-style-type: none"><li>● 戦略市場分野における成長ドライバーの拡販や新たな成長ドライバーの創出による事業成長</li><li>● 収益性の低い基盤事業の体質強化</li></ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>● 政策保有株式等の資産売却やグループ会社での余剰資金活用による資金効率化</li><li>● 健全な財務体質を維持しつつ、必要性に応じた有利子負債の活用検討</li><li>● 株主還元<ul style="list-style-type: none"><li>・ 配当性向30%以上を目標に安定配当の継続実施</li><li>・ 自己株取得を機動的に実施できるよう定款の変更（2023年6月定時株主総会にて決議）</li></ul></li></ul>
PER	<ul style="list-style-type: none"><li>● 戦略市場分野における成長ドライバーの拡販や新たな成長ドライバーの創出による事業成長</li><li>● 収益性の低い基盤事業の体質強化</li></ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>● サステナビリティ経営の推進<ul style="list-style-type: none"><li>・ 太陽光発電等による再生可能エネルギーの利用促進</li><li>・ エンジニアリング事業を通じたカーボンニュートラルへの貢献</li><li>・ ダイバーシティ・エクイティ&amp;インクルージョンを意識した人的資本への投資</li></ul></li></ul>



# TOPICS

---



## 「VR能 攻殻機動隊」の空中結像技術（AIRR）に 空中ディスプレイ用リフレクターを提供

2023年10月13日～15日に東京建物Brillia HALL（東京都豊島区）で上演された「VR能 攻殻機動隊」に協力しました。公演では「空中結像技術（AIRR）」により仮想現実空間が舞台上に再現される中で、SF漫画の金字塔ともいわれる「攻殻機動隊」の世界が能で表現されました。当社は空中結像技術（AIRR）に使用された空中ディスプレイ用リフレクターを提供しました。

この公演はこの後、ベネチア凱旋公演を皮切りに、ワールドツアーが予定されています。



演出：奥秀太郎  
脚本：藤咲淳一  
VR 技術：稲見昌彦（東京大学教授）  
映像技術：福地健太郎（明治大学教授）  
映像技術：杉本麻樹（慶應大学教授）  
AIRR 技術：山本裕紹 陶山史朗（宇都宮大学教授）  
照明：鶴田美鈴  
音響：百合山真人  
舞台監督：八木智  
協力：日本カーバイド工業  
製作：TBS



## 早月工場の新設備・多層広幅フィルム製造設備が2023年度内に本格稼働

2021年に着工、早月工場（富山県滑川市）に完成した多層広幅フィルム製造設備が2023年度内に本格稼働します。新設備には、多様な膜厚に対応する広幅の製膜設備とマルチコーターを導入、新規素材フィルムや新規素材を積層した次世代高機能フィルムの製造が可能になります。

エレクトロニクス・セーフティ分野に向けた高機能製品の開発、市場投入を推進します。



早月工場に増設された多層広幅フィルム製造設備

機関投資家の皆様からのご質問・お問い合わせ先

## 日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

---

メールにてお問い合わせください  
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えないものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。